

「明治維新あれこれ」

三野村利左衛門は文政4年(1821年)庄内藩士関口彦左衛門為芳の三男として生まれ、父の浪人と共に江戸に出て小栗忠高の中間となり、その後幾多の苦勞の末三井家の番頭となり、江戸幕府で勘定奉行、江戸町奉行、外国奉行を歴任した小栗上野介(忠順)の妻道子、遺児国子の生活の維持に深川の別邸に匿い、利左衛門亡き後は大隈重信の妻綾子が道子と国子の生活の面倒を見て、小栗家存続に力を尽くした様です。

因みに大隈綾子と小栗忠順は従兄妹同士であった様です。人と人との繋がりが人生の浮沈に関わり、現代に繋がって居ることに想いを受けて庄内と江戸の繋がりの機微に触れた様な気がします。

66回卒加賀山隆士